

20 建 第354号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

南会津町長 湯田芳博



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記につきまして、別添
のとおり回答いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

福島県南会津町

- 1、道路行政の根本は国土力の持続発展にあることを知るべし
 - ・「真に必要な道路整備」や「国土の総合振興政策」、更には「財源配分」に係る議論の場には、限りなく結果責任を持ち得る者を参画させること。(評論や世論を仕事とする方々では、本質をとらえた検討検証ができ得ない)
 - ・国家百年の大計の中で道路行政は進めるべきであるので、目先の利害、対立構図から脱する仕組みをつくり出すこと。
- 2、道づくりは、都市と地方の差別なく、国づくり(各地域の特性を認知し合える)の各種施策すべてに通じる、実に多様の可能性を持つ行政であるため、他省庁、関係機関と横糸でつながることである。
 - ・道づくりを狭義の視点でとらえる愚かさに早く気づき、国民の暮らしの連動性を深く探りあて地方と都市の相互補完力をもって出現する社会問題を速やかに解決するシステムを構築すべきである。
- 3、今後の道路整備は「地域の目指す将来の姿」にどのように貢献するかという視点から進めるべきで、これの実行性を確保するためのビジョンを各自治体は作成することを前提とすべきです。
 - ・単なるお願いの要望活動は止めるべきと思う。
- 4、国政を担当する公務員の方々は、暮らしの現場を体感する機会を多く持つべきである。
 - ・制度設計者は限りなく暮らしの最終責任者の体験を積んでほしい。

②-1 地域の現状と抱える課題

福島県南会津町

○現状

- 1、地場産業の衰退に伴い地域経済が落ち込み、子育て階層や若者の就業の場がなく生産人口が減少している。
- 2、限界集落といわれるように、集落の共同生活の仕組みが崩壊する状況にある。
- 3、安さ競争に巻き込まれ、家庭の経済力が弱まっており、子育てや高齢者福祉の介護体制が持続できない状況にある。
- 4、都市交流を求めた観光を推進するも実効性が確保されず、公共交通体系が分断されている。
- 5、物流や助け合いの安定持続に危機感を持っている。

○課題

- 1、雇用機会の創設と安定的就業環境の構築
 - ・ 森林の有効活用を図り CO2 削減に貢献する。
- 2、集落の不足する部分を補完する交流のシステムづくり
 - ・ 交流の縁を発展させ相互支援のシステムを創設する。
- 3、小さな町の本物を目指す一流品の生産加工や創意工夫の自前経済をつくり出す。
- 4、鉄道交通と二次交通の一体的連携システムを構築し、多様な観光交流の実態を導き出す。
- 5、安全で安心な暮らし創造の基盤である道路整備を着実に進める。

- 1、「ありがとう」の広がる町(一人ひとりの存在感が出現する共助の関係を構築する)
- 2、健康で生涯現役の使命を感じ生産性の持続する町(医療費負担の少ない高齢化社会を構築する)
- 3、賦存する資源を再構築し安定的で納得性の高い就業環境が整う町(地方発進による自前経済を構築する)
- 4、運命共同体として地域の総合力を保持してきた集落力の逞しい町(都市交流の縁をつなぎ相互補完の体制を構築する)
- 5、観光交流の多様化を図り住民総参加の中で循環する交通ネットワークが整備されている町
- 6、企業活動の持続による所得向上が確保され住民生活の安全安心が満たされる町(物流の活発化と創造性の高い資源活用、更には冬期間における除排雪の進むシステムを構築する)
- 7、これらの将来ビジョンを確実に実行するための基軸は国県道をはじめ地方道路の優先的整備が約束されることを望むものです。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

福島県南会津町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	1. 栃木西部会津南道路整備(国道121号) 福島県南会津町から栃木県日光市(旧藤原町)へと続く道路の改良事業。 2. 高規格道路会津縦貫南道路整備(国道121・118号) 南会津町から会津若松市へと続く道路整備	1. 広域観光圏事業指定に伴う具体的施策の実行 ・山形県米沢市から南会津町までをつなぐ ・栃木県日光市から会津若松市までをつなぐ 一体的観光ルートによる交流促進が図られ、 限りない地域経済の発展に寄与する	1. 商工業の生産活動の拠点である都市部の住民が、安定的・持続的にその役割を担うための健康増進の場の提供を南会津地方が行う。(化学物質過敏症をはじめ各社の健康管理事業)
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	1. 国道289号線田島バイパス事業 2. 国道401号線山口地区拡張及び歩道整備	1. 田島地域市街地の渋滞や交通安全の解消を図るとともに、商店街の賑わいづくりにバイパス整備は大いに期待できる。更には災害時等の危機管理機能は大きく強化される。 2. 通学する子供の安全を確保すると共に拡幅による集いの広場として、観光客との交流が深まり高齢者等の生き甲斐づくりにも効果が期待できる。	1. バイパス沿線に、南会津の自然へ誘うインフォメーションを創る(自然の植生) 2. 伊南川と温泉をつなぎ、地域の祭りや人材を掘り起こし地域力を高める。
・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	1. 地域内各路線で実施している流雪溝 ・田島地域 田部地区(町道) 今生地区(国道289号) ・南郷地域 木伏地区(国道401号)	1. 冬期間の除排雪が沿線住民一人ひとりの役割として協働の助け合いが生まれる ・高齢者達の仕事として、適度な運動と地域コミュニケーションが生まれる。 ・子育てで大切な自立のための試練という貴重な体験が、家族助け合いの中で行うことができる。	1. 建設後の自治体による除排雪経費を削減すると共に集落力を高め、自己責任による地域づくりが促進される。